

経済学部経済学科 カリキュラムマップ

履修区分	科目区分	対象パッケージ	1	2	3	4	
必修	基礎教育科目	学部共通	基礎マクロ経済学/基礎ミクロ経済学				
	演習科目				専門演習2a・2b	専門演習3a・3b	
全員履修	基礎教育科目	学部共通	経済学入門/数表現の基礎/大学入門演習a・b				
	演習科目			専門演習1a・1b			
選択必修	専門科目パッケージ	学部共通		マクロ経済学1/ミクロ経済学1			
		公務キャリア		民法a・b/憲法a・b/行政法a/日本経済論a・b			
		金融キャリア		ファイナンス論/金融史/金融実務a・b/金融論1/民法a・b			
		グローバル・キャリア	留学英語ステップ2a・2b				
				グローバル・ビジネス論a・b/中小企業・ベンチャー論a・b/貿易実務実践/貿易実務入門			
		ビジネス経済学	ゲーム理論				
				企業経済学a・b/国際金融論/産業組織論			
		ビジネス統計分析		パソコン統計分析/ビジネスデータ分析a・b/計量経済学/統計学1a・1b			
		ビジネス法		会社法a/刑法a・b/民事訴訟法/民法a・b			
					会社法b/刑事訴訟法		
		まちづくり	経済地理学a・b				
				環境経済論a・b/地域経済論a・b/中小企業・ベンチャー論a・b			
		くらしの経済	財政学1a・1b/生活経済論a・b				
				社会政策a・b/労働経済論a・b			
日本経済	世界経済史a・b/日本経済史a・b						
		政治経済学a・b/日本経済論a・b					
グローバル経済		アジア経済論a・b/開発経済論a・b/国際競争法a・b/国際経済学1					
公務キャリア		公務キャリア・プロジェクト実習a・b					
対象パッケージのみ全員履修	実習科目	金融キャリア		金融キャリアプロジェクト実習a・b			
		グローバル・キャリア		グローバル・キャリアプロジェクト実習1a・1b	グローバル・キャリアプロジェクト実習2a・2b		
		まちづくり		国内フィールドワーク実習1a・1b	国内フィールドワーク実習2a・2b		
		グローバル経済			海外フィールドワーク実習a・b		
自由選択	演習科目					卒業論文a・b	
	公務員対策プログラム		公務員試験対策・社会科学a・b/公務員試験対策・人文科学a・b/公務員試験対策・数的処理a・b				
	実践英語プログラム		留学英語ステップ1a・1b/留学英語ステップ2a・2b/留学英語ステップ3a・3b/留学入門講座				
	実践法律学プログラム		実践法律学プログラムビジネス法a・b/実践法律学プログラム刑事法a・b/実践法律学プログラム民法総合a・b				
	実務講座		簿記初級a・b				
			パソコン統計分析/データベース管理/貿易実務実践/貿易実務入門/レポート作成の基礎/FP技能a・b/簿記中級/実務講座a/実務講座b				
	特講科目	学部共通		経済学特講A~J/くらしの経済特講C/グローバル・キャリア特講C/グローバル経済特講C/ビジネス経済学特講C/ビジネス統計分析特講C/ビジネス法特講C/まちづくり特講C/金融キャリア特講C/公務キャリア特講C/日本経済特講C			
				くらしの経済特講A・B/グローバル・キャリア特講A・B/グローバル経済特講A・B/ビジネス経済学特講A・B/ビジネス統計分析特講A・B/ビジネス法特講A・B/まちづくり特講A・B/金融キャリア特講A・B/公務キャリア特講A・B/日本経済特講A・B			
				ファシリテーション入門/学生生活と法/経済学部生のためのキャリアのススメ			
				ミクロ経済学2/外国語講義a・b/環境社会論/企業活動と法a・b/金融商品実務/金融論2/経済学史a・b/経済数学a・b/経済成長論a・b/経済政策/経済統計学/公共経済学a・b/国際関係論a・b/国際経済学2/国際法a・b/地方財政/農業経済論/判例研究の手法/法解釈学入門			
		マクロ経済学2/ヨーロッパ経済論a・b/経済法a・b/財政学2/情報経済学/租税法a・b/統計学2					
教職課程用			現代地理学a・b/人文地理学a・b/西洋史概説a・b/東洋史概説/日本史概説1/日本史概説2a・2b/日本地誌学a・b				
			世界地誌学a・b/哲学概論a・b/倫理学概論a・b				

[経済学科]授業科目の概要

※2023年度シラバスより抜粋

※50音順

授業科目の名称	講義等の内容
アジア経済論a	授業の概要は、以下の3つのポイントに沿って順次進めます。 ①日本企業が進出するアジア経済の情勢の把握、②アジア経済発展のメカニズムと固有の論理、③アジアの視座でグローバル経済・グローバルイシューの理解 到達目標は、以上の3つの課題の学習内容を十分把握し、それに関わる専門知識を修得し、そのプロセスの中で分析力、論理力を身につけることにあります。
アジア経済論b	テーマ:アジア経済の発展とビジネス環境 日本にとって、北米と並んで最も重要な海外市場となっているのがアジアです。特に平成の30年の間に中国が飛躍し、世界第二位の経済大国となりました。中間層は急拡大して、訪日観光客も急増、今後、インド、インドネシアなどがそれに続いていく可能性は高まっています。他方で、米国との貿易摩擦、マクロ経済の脆弱性、政治混乱などの諸リスクも抱えており、インフラ整備、人材育成など課題も数多くあります。 本講義では、アジア諸国・地域を主に経済からのアプローチで理解を深めたいうえで、日本企業の展開という視座でアジアを見つめ、ビジネスパーソンとなるうえでのフォーワードルッキングな知識を実践的に学修します。アジア経済論bでは東南アジア諸国連合(ASEAN)に焦点を当て、近年の成長の光と影をみていきます。
FP技能a	ファイナンシャル・プランナーは税金、保険、年金などの幅広い知識と視野を持ち、ライフプランの設計を行うお金の専門家です。社会が流動化する中で、ますます価値が高まっている資格の1つです。有資格者は、金融機関のほか、不動産会社・保険会社・住宅メーカーなど様々な業種で求められる資格なので、金融・保険・不動産業界などでの就職や転職に有利になるだけでなく、独立・開業して活躍することも可能です。また身につける知識は年金・税金・資産運用・不動産・相続・保険など日常生活でも役立ちます。
FP技能b	
海外フィールドワーク実習a	グローバル経済Pの一部ゼミと連動して開講される科目。アジアの経済・社会や企業活動の実態等を現場の視点から学ぶため、アジア諸国でフィールドワークや視察研修を行います。
海外フィールドワーク実習b	
会社法a	激動する経済社会の主要な担い手である株式会社にはさまざまな利害関係者が登場する。株式会社を通じて個人ではなしえないような事業が遂行できる反面、さまざまなトラブルも不可避免的に発生する。 この講義では、まず株式会社に求められる役割といった「そもそも」の部分から言及していく。その後、現在の会社法規制の中でも重要な部分に絞って授業を行う。
会社法b	激動する経済社会の主要な担い手である株式会社にはさまざまな利害関係者が登場する。株式会社を通じて個人ではなしえないような事業が遂行できる反面、さまざまなトラブルも不可避免的に発生する。 この講義では、まず株式会社に求められる役割といった「そもそも」の部分から言及していく。その後、現在の会社法規制の中でも重要な部分に絞って授業を行う。
開発経済論a	前半では、まず生産活動や所得が生み出されるしくみの基本的な考え方を学んだうえで、発展途上国の経済発展に必要な投資や技術進歩について学ぶ。後半(第9回～第13回)では、途上国の経済発展に必要な工業化がいかにして進んでいくのかについて学ぶとともに、経済発展において教育の普及が果たす役割を学ぶ。最後に(第14回、15回)、ここまで学んだことを用いて、カンボジアの経済がどのようにして発展してきたのかや、その直面する課題を、データを読み取りながら、見ていく。
開発経済論b	前半では、貧困が意味するもの、貧困の測定方法、貧困の分布といった基礎的な事項を学ぶ。後半では、貧困の影響と原因、貧困と格差や経済成長の関係、そして貧困削減策について学ぶ。また、学んだことを応用して、第15回で、カンボジアを例に、貧困の原因や貧困がどのようにして削減されるのかを考察する。
学生生活と法	学生生活において生じ得る事例(多くはトラブル)を素材にして、それらについて法がどのような解決を用意しているのかを、検討します。学生諸君には随所で意見を述べてもらいます(たとえば、現在用意されている法的解決は適切と考えられるか、より適切な解決方法はないかなど)、担当者はそれらをふまえて解説等をします。このようなプロセスを通じて、学生諸君が、(学生生活においても生じ得る)各種事例(トラブル)とそれらに対する法規制について習得するとともに、法が日常生活と深く関わる可変的な問題解決の道具であることを理解し、民法法・刑事法・行政法の基本的な知識と理解を獲得することを、目指します。
環境経済論a	豊かで便利な生活を営むうえで、私たちは様々な形で環境に依存している。例えば、エネルギーとして利用するための化石燃料はまさに環境が生み出す資源である。あるいは、私たちの生活に密接している、農業や漁業を支えているのは環境であり、私たちにレクリエーションの機会や、精神的な安らぎを与えてくれる美しい景観もまた、環境が供給しているサービスの一つである。 しかし、私たちの豊かな生活を支える環境は、私たちの生活や経済活動の規模や強度の拡大に伴って劣化・消失している。具体的には、化石燃料の残存量は減少し枯渇が危惧されている。また、土壌・海洋の汚染は広がり、景観や生物多様性の劣化が進行している。 本講義では、以下の3点に注力しながら進めていく。 環境問題に関して、経済学を通じた理解を目標とする。特に、経済学における環境問題の解釈や、その発生メカニズムの理解に取り組む。そして、環境問題解決を考える上での足掛かりとする。環境問題対策としての経済学的アプローチの理解を目標とする。環境経済学は、環境問題発生メカニズムに留まらず、その解決のための経済学的アプローチも提供する。環境経済学の学習を通じて、現実ではどのように環境問題解決のための手段が用いられているのかを理解してほしい。その際には、その概要をなぞるだけでなく、経済学的フレームワークを意識しながら学習してほしい。環境問題解決に向けた具体的な政策手段や取り組みに関する自らの意見の発信を目標とする。講義で学んだ経済学的アプローチを用いて、環境問題対策に関する情報を適切に収集、整理し、経済学的解釈をおこなってほしい。そして、環境問題に関する、自らの意見を発信してほしい。

授業科目の名称	講義等の内容
環境経済論b	<p>豊かで便利な生活を営むうえで、私たちは様々な形で環境に依存している。例えば、エネルギーとして利用するための化石燃料はまさに環境が生み出す資源である。あるいは、私たちの生活に密接している、農業や漁業を支えているのは環境であり、私たちにレクリエーションの機会や、精神的な安らぎを与えてくれる美しい景観もまた、環境が供給しているサービスの一つである。</p> <p>しかし、私たちの豊かな生活を支える環境は、私たちの生活や経済活動の規模や強度の拡大に伴って劣化・消失している。具体的には、化石燃料の残存量は減少し枯渇が危惧されている。また、土壌・海洋の汚染は広がり、景観や生物多様性の劣化が進行している。</p> <p>本講義では、以下の3点に注力しながら進めていく。</p> <p>環境問題に関して、経済学を通じた理解を目標とする。特に、経済学における環境問題の解釈や、その発生メカニズムの理解に取り組む。そして、環境問題解決を考える上での足掛かりとする。環境問題対策としての経済学的アプローチの理解を目標とする。環境経済学は、環境問題発生メカニズムに留まらず、その解決のための経済学的アプローチも提供する。環境経済学の学習を通じて、現実ではどのように環境問題解決のための手段が用いられているのかを理解してほしい。その際には、その概要をなぞるだけでなく、経済学的フレームワークを意識しながら学習してほしい。環境問題解決に向けた具体的な政策手段や取り組みに関する自らの意見の発信を目標とする。講義で学んだ経済学的アプローチを用いて、環境問題対策に関する情報を適切に収集、整理し、経済学的解釈をおこなってほしい。そして、環境問題に関する、自らの意見を発信してほしい。</p>
環境社会論	<ul style="list-style-type: none"> ・11～12月頃実施される第35回eco検定試験をターゲットに授業を進めていきます。 ・授業内容はeco検定公式テキスト第9版より、出題確率の高い箇所を重点的に講義します。 ・毎回色んな分野(企業、行政、NPO)のゲスト講師を招いてワークショップを行います。
企業活動と法a	<p>授業の前半ではその日に扱うテーマについてどのような職種の企業のどのようなシーンで必要とされるものなのかを解説し、関連法規について六法全書を参照しながら条文を確認してもらいます。</p> <p>授業の後半では具体的に契約書や利用規約などを参照しながら、どのような点に注意して実務を遂行すべきなのかを解説します。</p>
企業活動と法b	<p>なお、昨年度後期から冒頭20分程度はその日に話題になった法律的な論点を含むニュースを取り上げ、解説しています。最初の20分間で「法律を解釈し、結論を導き出すこと」の感覚を掴んで欲しいと考えています。</p>
企業経済学a	<p>企業について考える際、株式会社か持分会社かという会社形態、製品を製造から販売まで行っているのかという事業範囲、成果主義か年功賃金制かという報酬体系など、様々な観点がある。もちろん企業はこれらをやみくもに決めていくわけではない。授業では、現実企業がどのような理論に基づいてこれらの意思決定をしているのか経済学の視点から説明していく。</p>
企業経済学b	<p>そもそも経済学とはどのような学問であるかと問われたならば、希少な資源をいかに配分するかを学ぶ学問であるというやや堅苦しい答え、または、現実の経済現象を読み解くための学問であるという受け入れやすい答えのいずれかが返ってくるのが大半であろう。本講義では、後者の捉え方による経済学の力を発揮させ、さまざまな現実の事例を読み解いていく。具体的には、映画館の料金が大人と子供で違う価格が設定されていることや、郊外に大規模なショッピングモールが建設されることなどの経済学的背景を説明していく。</p>
基礎マクロ経済学	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、マクロ経済学で使用する基本的な用語の意味と理論的な思考法を習得することを目的とする。 ・代表的なマクロ経済データの読み方を学び、日本のマクロ経の済状態を把握できるようになる。 ・とくに、マクロ経済学で最もよく用いる国内総生産の概念について、その意味、算出の仕方を理解できるように授業を構成している。 ・簡単な数式やグラフを用いて、消費の決まり方、貯蓄の決まり方、45度線分析による国内総生産の決まり方を説明できるようになってもらう。 ・マクロ経済学を修得するためには、用語の定義の理解に加えて、数式あるいはグラフの理解が必要不可欠である。しかし、数学的思考が不得意な学生もいると予想される。そこで講義では、計算の仕方やグラフの読み方についての解説も丁寧に行うことで、学生の理解をサポートしていく。
基礎ミクロ経済学	<p>他の専門科目を理解するためには、ミクロ経済学の基礎的な知識が必要である。本講義では、二回生以降の科目を理解するために必要な前提知識として、ミクロ経済学の基礎を身につける。また、その基礎知識がどのように応用できるかも学ぶ。より具体的には、市場における取引を議論するための枠組みである市場均衡(部分均衡)モデルについて学ぶ。また、それにより、様々な現実で起こる経済現象を説明する。</p>
行政法a	<p>行政法とは、行政の組織や作用について規律する法律の総称である。社会秩序を取り締まる警察や、治水をはじめとする防災、道路や学校等公共施設の設置など、行政活動は私たちの生活の様々な場面で深い関わりをもっている。そして、それゆえに行政に関する法律は多種多様となっている。</p> <p>本授業では、それらの活動を規律する諸法律がどのような原則に基づいているのかについて学び、ひいては実社会で行政組織と適切に関わっていけるようになってもらいたいと考える。</p> <p>なお、行政法は大別すると、行政を営む組織や機構について定める行政組織法、行政組織が実施すべき行政の内容や手続きを定める行政作用法、違法な行政活動により不利益を受けた国民の救済について定める行政救済法の三部門に分かれるため、本授業でも、この大別に基づき、順に各部門について解説していきたい。</p> <p>「行政法a」では、行政組織法および行政作用法について主に扱う。</p>
行政法b	<p>行政法とは、行政の組織や作用について規律する法律の総称である。社会秩序を取り締まる警察や、治水をはじめとする防災、道路や学校等公共施設の設置など、行政活動は我々の生活の様々な場面で深い関わりをもっている。そして、それゆえに行政に関する法律は多種多様となっている。</p> <p>本授業では、それらの活動を規律する諸法律がどのような原則に基づいているのかについて学び、ひいては実社会で行政組織と適切に関わっていけるようになってもらいたいと考える。</p> <p>なお、行政法は大別すると、行政を営む組織や機構について定める行政組織法、行政組織が実施すべき行政の内容や手続きを定める行政作用法、違法な行政活動により不利益を受けた国民の救済について定める行政救済法の三部門に分かれるため、本授業でも、この大別に基づき、順に各部門について解説していきたい。</p> <p>「行政法b」では、行政救済法を主に扱う。</p>
金融キャリアプロジェクト実習a	<p>証券会社のみならず、また、銀行をはじめとして証券外務員2種、3級FP技能検定の資格取得が推奨されている。学生時代に金融関連の資格を有することで、金融機関への就職活動が有利にはたらく。また、証券市場論という学術的な入門学習も兼ねている。ただ資格取得を目指すのであれば、大学で学習する意味がない。証券外務員のテキストは著名な学者が執筆に携わっている。このため証券外務員のテキストを深く理解することで学術的素養も身に着ける。各回の該当問題の解答と解説。</p>
金融キャリアプロジェクト実習b	<p>証券会社のみならず、また、銀行をはじめとして証券外務員2種、3級FP技能検定の資格取得が推奨されている。学生時代に金融関連の資格を有することで、金融機関への就職活動が有利にはたらく。また、証券市場論という学術的な入門学習も兼ねている。ただ資格取得を目指すのであれば、大学で学習する意味がない。証券外務員のテキストは著名な学者が執筆に携わっている。このため証券外務員のテキストを深く理解することで学術的素養も身に着ける。各回の該当問題の解答と解説。</p>
金融史	<p>第1回でガイダンスとして経済発展と金融の関係を示し、第2～5回で戦前、第7～9回で戦時から高度成長期、第11～14回でポスト高度成長期の金融業の展開を、その時々を中心とするトピックに絞って講義する。</p>
金融実務a	<p>オリエンテーション、金融業界で今起きていること、金融業界の基本、金融機関の種類と役割、銀行のしくみ、証券会社のしくみ、以後、金融実務bに続く。</p>
金融実務b	<p>オリエンテーション、保険業のしくみ、投資銀行のしくみ、ノンバンクのしくみ、キャリア形成、補論。金融実務aを事前に受講することが望ましい。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
金融商品実務	金融リテラシーは、ただ単に投資をするための必要な知識や金融商品を学ぶことではない。「金融リテラシー」のベースである「情報リテラシー」という社会を生き抜く武器であり、情報弱者になってはいけない。金融という分野の情報を持っていないと交渉負けしてしまう。金融機関に「鴨られない」ように学んでほしい。
金融論1	金融システムの仕組みを理解するために必要な基礎概念や理論について学ぶ。ミクロ的な側面から、金融市場の機能、金融市場参加者の行動などについて講義する。マクロ的な側面から、金融経済の役割、金融政策の運営などについて講義する。
金融論2	「金融論1」と「ファイナンス論」で学習した基本概念と理論をさらに発展させて、勉強した金融理論を現実の金融問題にどのように応用できるかを習得してもらう。
グローバル・キャリアプロジェクト実習1a	この授業はPBL(Project Based Learning、課題解決型授業)の考え方を取り入れた内容となる。すなわち、参加メンバーが企業や行政、地域と連携し、企業などが抱えている実践的な課題を、学生の力で解決する形式を取る。PBLとはProject Based Learningの略(PをProblemとするケースもある)であり、日本語では「課題解決型授業」を意味する。その成果は協力いただいた企業などに報告・還元する。
グローバル・キャリアプロジェクト実習1b	教員は学生に課題を出す、学生が自主的に学習し、主に学生同士の発表と質疑応答で授業は進行する。また、学外学習(企業訪問、フィールドワーク)を頻繁に実施する。
グローバル・キャリアプロジェクト実習2a	この授業はPBL(Project Based Learning、課題解決型授業)の考え方を取り入れた内容となる。すなわち、参加メンバーが企業や行政、地域と連携し、企業などが抱えている実践的な課題を、学生の力で解決する形式を取る。PBLとはProject Based Learningの略(PをProblemとするケースもある)であり、日本語では「課題解決型授業」を意味する。その成果は協力いただいた企業などに報告・還元する。
グローバル・キャリアプロジェクト実習2b	教員は学生に課題を出す、学生が自主的に学習し、主に学生同士の発表と質疑応答で授業は進行する。また、学外学習(企業訪問、フィールドワーク)を頻繁に実施する。
グローバル・ビジネス論a	見た目に大きな差が無く、漢字を使用するという点で共通している中国(人)と日本(人)を比較する形で授業は進行する。中国市場の特徴や中国進出企業の動向、日中の文化の相違により日本企業が実際に中国で直面する問題点や、それをどのように解決したかを、できるだけ具体的事例を取り上げながら解説し、文化の違いが引き起こす中国ビジネスにおける様々な問題について学んでもらう。 授業時間の後半では、異文化理解を目的に、日本人にはなかなか理解が難しい中国人の行動規範や行動原理・価値観・仕事観などについて、民間企業勤務時代の実体験を織り交ぜながら説明する。 3回程度、外部講師による講演を実施する。内容は、グローバルビジネスに関する内容はもちろんのこと、普段学生が意識したことがないような業界の人を招き、就活に向けて視野を広げてもらえるような内容を実施する。
グローバル・ビジネス論b	海外事業で成功あるいは失敗している日本企業の実例を、その成功(失敗)の本質的な要因は何か、また海外進出に伴う困難をどのように解決したか(できなかったか)を、研究者の視点だけではなく実務者の視点でも説明する。なおかつ、授業の内容は、単なる実務経験者の武勇伝の披露に終わることなく、ケーススタディで取り上げる個別企業の経営数字や経営方針を交え、実務経験と学術的要素の均衡を図った内容とする。 4回程度、外部講師による講演を実施する。内容は、グローバルビジネスに関する内容はもちろんのこと、普段学生が意識したことがないような業界の人を招き、就活に向けて視野を広げてもらえるような内容を実施する。
経済学史a	経済学の父として知られるアダム・スミスの思想的源泉は、重商主義や重農主義と呼ばれるプレ古典派経済学だけではない。『道徳感情論』に見られるようにギリシャ哲学、ローマ法、共和主義思想なども、アイデアの源泉であった。本講義では、古代ギリシャのオイクスとポリテイアの議論に遡り、アダム・スミスが生み出した「経済学」という学問の特徴を見ていく(1~8回)。 ある分野について言及する際に、誰もが読むべきものとされている書物を古典と呼ぼう。スミスの『国富論』は経済学の古典でありその後の経済学の原点となった。スミスの『国富論』を出発的な古典とする経済学を古典派経済学と呼ぶ。あくまで古典であり、(その内容が絶対的に正しく、信者は決して疑問をはさずにはいけない)聖典ではない。古典派経済学者たちは、スミスの『国富論』を古典として参照しつつも、「スミス博士の誤謬」を指摘しながら古典派経済学を発展させていった(9~11、17~19回)。また、古典派経済学を批判した異端的な経済学者たちも、古典派経済学者に対する再反論すべき論点を提示している。異端派経済学の歴史は、主流派経済学の形成においては無視できる存在ではない(12~16、20~22回)。 さて、大恐慌に対する処方箋分析としてケインズ経済学=マクロ経済学が生み出されている(と一般に解釈されている)。古典派経済学の批判として生み出されたケインズ経済学は、絶対的権威として君臨し続けたわけではない。後継者たちはケインズを古典として参照しつつも、ケインズを神聖視せず、経済学は発展し続けていった。戦後のケインズ経済学の盛衰を見ていくことで、現代の主流派経済学mainstream economicsのミクロ経済学とマクロ経済学が成立するまでの歴史を学んでいく(第23~30回)。
経済学史b	このように、経済学史では、古代ギリシャから現代までの経済学の歴史を学んでいく。 経済学は各思想家の時代的な問題意識を背景に、他の経済学者の議論を参照しつつ、各経済思想家が独自のアイデアを練り込むことによって発展していった。リカードの比較優位やバティークラークの法則など、経済学者の名前が付けられた定理は多い。また、定理として名前がつけられておらずとも、ケインズやスミスという人名を聞いたときに、その人物をイメージできるようにすることに利益がある。なぜならば、経済理論や経済思想、歴史背景など、様々な情報が人名に集約されているからである。出来上がった完成品としての現代経済学だけではなく、現代経済学が完成するまでの道のりも知ることで、経済学をより親しみを込めて学ぶことができるだろう。言い換えれば、経済学史は、ミクロ・マクロの理論のみならず、国際経済学や金融論や財政学など専門科目の受講の際の興味促進剤となるのである。
経済学入門	前半は、経済学学習で重要となる基本概念について順を追って学ぶ。後半は、各回にテーマを設定し、現代日本がおかれている状況について多面的に学んでいく。前半はクラス担当者による継続的な講義、後半は各回のテーマに近い専門性を持つ教員によるリレー形式の講義の形で進められる。

授業科目の名称	講義等の内容
経済学部生のためのキャリアのススメ	<p>大学受験までの学生生活と大学での生活は異なる要素が多く、その後の就職活動も、これまでの「先生に、教えてもらう、育ててもらい姿勢」では遅れてしまい成果が期待できない。そこで上記到達目標と同様に、「先生や仲間と一緒に、自分が、学び、調べ、問いかけてゆく姿勢」に転換する必要がある。その中でも特に重視するのは以下の3点。</p> <p>①はじまるのではなく、はじめる 他人事のように大学生活が始まるのではなく、自ら始めていくことを喚起する。そしてその面白さを伝えてゆく。大学内の授業、クラブサークル活動は基より、学外のボランティア、アルバイト、インカレサークル、インターンシップ、旅など多種多彩。これらをメニューとして提示し、それぞれで活動した先輩の実例も紹介していく。</p> <p>②高校ではできない、この大学、このクラス、このメンバーだからこそできることへの、視点の転換 この大学この授業このメンバーだからできることに視点を変えてゆく。オンラインとオフラインの両方を駆使しながら、行動半径と時間の広がり伝えてゆく。例えば竹本紀子(阪南大学卒業生)はミュージカル、中川浩一はロックミュージック、本田勝裕はマスコミとジャズに広げて、その人脈は今も生きている。「無理に決まっている」のではなく「可能性がある」という捉え方への転換をおこなう。</p> <p>③アツいやスゲーから脱却し、ジブンらしさへ:について 高校までは「アツ、こうでしょ」「私とは違って、彼はスゲーからできる」と、平均化に向かい、自分を卑下することが多かったが、これからはより自己理解を通じて自分らしくすることや、新しい自分を発見することを実践的におこなう。この3つのポイントを理解し、実践してゆくことがこの授業の価値になる。</p> <p>講師は以下の3人で担当する。</p> <p>①本田勝裕 学生時代はマスコミオタクで、広告研究会やマスコミサークルを作って活動。朝日放送、小学館などでマスコミバイトを行う。アルバイト先の一つ、(株)学生援護会(現・パーソルキャリア(株))に就職。1996年に独立しキャリアコンサルタント業の先駆け。110大学で講演実績がある。元京都造形芸術大学教授。</p> <p>②中川浩一 卒業後、就職サイトであらゆる業界への営業経験・知識を活かし、講師として10年、就活講座やキャリアデザインの教壇で年間3000名以上の就活生をサポート。学生時代は学費と生活費を稼ぐために50種類以上のアルバイトに明け暮れた経験を元に、大学生の本当の意味での「コストパフォーマンス」を語っている。ロックミュージシャンでもある。</p> <p>③竹本紀子 阪南大学経済学部卒業生。NPO法人日本ファシリテーション協会会長を務め、ダイバーシティ&インクルージョンとファシリテーションのプロフェッショナル。社会人教育研修と学生のキャリア支援を2本柱として活動。ファシリテーションを活かしたキャリア教育で価値を生み出す。世界中とつながったオンライン・ワークショップも実施した。</p>
経済数学a	経済学でよく使う連立方程式、数列、微分などを、教科書の例題を解きながら解説します。数学の説明は直観性を重視し、式とグラフをできるだけ関連させながら説明するつもりです。宿題では、教科書の例題によく似た応用問題を出しますので、まず自分で解いてみてください。
経済数学b	
経済政策	<p>日本経済の低迷が言われるようになってひさしい。近年では「失われた30年」という言葉まで耳にする。[シュンペーターはイノベーション(新機軸)によるダイナミズムを資本主義経済の特徴と捉えたが、変化の絶えない経済に日本はどう対応してきたのだろうか。日本(人)の豊かさはどうなったのか。「経済の認識」の学を経済学とするならば、そこで得られた理論や知識を国民の豊かさのために実装するための学が経済政策であろう。講義では「経済・経済学とは何か」を導入部に、経済学の基礎知識を踏まえて現代経済の仕組みを大まかに押さえて、経済政策の「必要性・意義」、「展開と変遷」、「現実と実効性」、背後にある「思想」の基本を学ぶ。また、戦後以降の資本主義経済を「牽引してきた日本をはじめとする主要国の経済の具体・現実的展開を瞥見する。授業内容に関わる世界経済のカレントな流れ、トピカルな経済動向にも論及する。</p> <p>キーワード: 経済政策、世界経済、経済思想、資本主義経済</p>
経済成長論a	<p>1.講義では理論の説明は必要最小限にとどめ、内容はできるだけ平易なものにする。</p> <p>2.現実の経済に対する理解を深めるためには、常に最新の経済情報に接しておく必要があるので、適宜時事経済問題をとりあげて解説する。新聞・雑誌やネットの経済記事や資料映像(YouTubeやビデオ)も活用する。</p> <p>3.講義は一方通行を避け、質疑応答を交えた双方向で進める。</p> <p>4.前後期、各1回程度、ゲストスピーカーを招いての特別講義を行うことがある。</p>
経済成長論b	<p>以下の「授業計画」に記された内容を予定しているが若干変更することがある。</p> <p>また遠隔授業となった場合、その期間中は、教材や課題などをWEB配信することで、個人学習を行う。</p> <p>キーワード: 経済成長、経済発展、イノベーション、リープフロッグ</p>
経済地理学a	本講義では、産業構造という概念から地域の成長とは何か、そのメカニズムは何かということ、産業政策と地域政策によって成り立っていた戦後の国土計画を外観する。そして、バブル崩壊以降の低成長時代に求められるようになった、地域の特徴を活かした、つまり産業構造の違いによって成長させる政策の違いを明らかにする。特に、地産地消や安心安全、産業集積などの第一次産業、第二次産業、第三次産業を成長のエンジンとするための方法とは何かを、具体的事例を見ながら、そのメカニズムを知ってもらおう。
経済地理学b	本講義では、経済学に地理の概念を取り入れて、企業の立地行動について解説します。まず、そうした研究の蓄積がある産業立地論の成り立ちから解説し、産業の立地がどのようにすすむのか、そしてそれが現代においては企業単位の分析に変化し、なぜそのような現象が起こるのかを見ていきます。特に、近年のグローバル化した経済において、国境を越えた企業活動や寡占的な競争環境が大きな影響があることを解説します。
経済統計学	経済統計を分析する上で必要な統計学的手法について解説を行う。その上で、官公庁により公開されている経済統計を示し、その作成方法・作成目的や取得方法を説明する。その後、その統計の特徴や課題についても説明し、実際に分析を行い、結果を解釈する。
経済法a	講義では、「不当な取引制限」のうち、実際に独占禁止法違反として問題とされることが多い行為類型を取り上げ、事例とともに解説する。
経済法b	講義では、「不正な取引方法」、「私的独占」のうち、実際に独占禁止法違反として問題とされることが多い行為類型を取り上げ、事例とともに解説する。また、下請法、景表法等、関連する法律についても触れる予定である。
刑事訴訟法	本講義では、具体的事例を随時参照しながら、①揭示手続(捜査手続、公判手続)、②少年審判手続、③犯罪者処遇手続の概要および基本理念について解説していく。随所で学生諸君の発言を求め、ときにはディスカッション形式を併用して、上記の理解を深める。理解を促進するため、各回の講義終了時に確認テストを実施する。
刑法a	刑法各則の主要な犯罪に関する身近な事例(新聞等で報道された事案、裁判で実際に争われた事案、講義上の典型事例、担当者が弁護士として接した事例など、できる限り平易でなじみやすいもの)を検討します。それらを通じて、各犯罪の内容・保護法益・実例を習得します。検討においては、学生諸君に(既習の知識や社会経験等に基づいて)多く発言・議論してもらい、「条文解釈による法規範の定立→法規範の事実への適用」という法的判断の方法や、法律学が説得の学問であることを体得してもらいます。
刑法b	犯罪の一般的成立要件が問題になる身近な事例(新聞等で報道された事案、裁判で実際に争われた事案、講義上の典型事例、担当者が弁護士として接した事例など、できる限り平易でなじみやすいもの)を検討します。それらを通じて、犯罪の一般的成立要件(構成要件・違法・責任など)やその基礎となる基本原則(罪刑法定主義、法益保護主義、責任主義など)を習得します。検討においては、学生諸君に(既習の知識や社会経験等に基づいて)多く発言・議論してもらい、「条文解釈による法規範の定立→法規範の事実への適用」という法的判断や、法律学が説得の学問であることを、より鮮明かつより深く体得してもらいます。

授業科目の名称	講義等の内容
計量経済学	具体的には、統計学の基礎的知識、回帰分析(最小二乗法)などを講義する予定である。また、統計ソフトSPSSを使った実証分析では、まず、経済モデルを構築し、その定式化を行う。定式化されたものを、経済データを用いて適切な統計手法により推定を行うことを習得する。
ゲーム理論	人々、あるいは、企業などの諸集団の利益や損失が自分だけでなく他者の選択との組み合わせによって決まるような状況を、「ゲームの状況」と呼びます。たとえば、勝敗に何かを賭けたじゃんけんもゲームの状況です。皆さんが授業の難易度を予想しながら履修する科目を選ぶ状況もゲームの状況です。「ゲーム理論」というのはこのようなゲームの状況でどのような結果が予想されるかなどを研究する学問であり、この授業ではこのゲーム理論の使い方を紹介していきます。じゃんけんのように人々が同時に意思決定を行う状況を分析するときには、「戦略形のゲーム」が使われます。この授業の最初に扱うのは、こうした状況の分析方法です。他方、履修科目の選択の例では、学生が科目を選択した後で教員が難易度を調整することができます。ここでの学生と教員のように意思決定に順番がある状況を分析するときには、「展開形のゲーム」が使われます。これは戦略形のゲームの後で扱います。このように、ゲーム理論には、それぞれの状況に応じて用いる分析の典型的な方法があります。そこで、それらをやさしいものから順番に勉強していくことで、たとえば、面接官の好む学生がわからないかと思っている学生と面接官との面接はどうか、や、オークションなど、より複雑な状況も分析できる方法を身につけていきます。
現代地理学a	地理学は現代における生活と結びつきの深い学問である。前期は主に世界・日本の自然環境と観光・文化について扱う。
現代地理学b	後期は近年の話題や興味深い事項について地理学の関連分野と結びつけて学ぶ。授業中に行う実習を通じて、その日のテーマについてより深く学ぶ。
憲法a	憲法は、国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されることがないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる。そして、それゆえに、憲法では、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。本授業では、そのような憲法の役割について、基本的な人権や統治機構の解説を通して、詳細に伝えていきたいと考える。
憲法b	憲法は、国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されることがないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる。そして、それゆえに、憲法では、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。本授業では、そのような憲法の役割について、基本的な人権や統治機構の解説を通して、詳細に伝えていきたいと考える。
公共経済学a	現代の標準的な経済学では、政府の経済活動の意義を次のように認識する。「自由市場経済は、効率的な資源配分をもたらす優れた機構(メカニズム)である。しかし、同時に、自由市場経済には『市場の失敗』と呼ばれる限界が存在する。ゆえに、『市場の失敗』を克服するために、政府による介入が必要とされる」。本講義では、以上のような「市場」「政府」に対する経済学的な捉え方とその限界について学習する。 キーワード:需要と供給の法則、市場均衡、社会的余剰、市場の失敗、外部性・外部効果、社会的費用、厚生経済学、公平性と効率性
公共経済学b	民主主義とはなにか。民主主義を支えるとされる諸制度とはどのようなものであり、どのような性質を持っているのか。こうした問いを探究してきたのが、(公共経済学の一分野である)社会的選択理論・公共選択理論である。本講義では、それらの経済学的な知見を中心に、また政治学・哲学等隣接諸科学の成果をも援用しながら、民主政治の本質について考える。 キーワード:民主主義、社会的選択理論、公共選択理論、正義論、政治過程、選挙制度、官僚制、政党制
公務員試験対策・社会科学a	社会科学において、特に政治の分野で頻出のトピックスを選び、その解説と問題演習を通じて、公務員採用試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員試験対策・社会科学b	社会科学の中の特に経済の分野において頻出のトピックスを選び、その解説と問題演習を通じて、公務員採用試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員試験対策・人文科学a	人文科学の中の世界史の分野において、歴史的に重要かつ他の教科との関連性の高いテーマを選び、その解説と問題演習を通じて、試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員試験対策・人文科学b	人文科学のうち日本史の分野において公務員試験に頻出のテーマを選び、その解説と問題演習を通じて、試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員試験対策・数的処理a	本講義では、数的処理の中でも数的推理の分野において公務員試験に頻出のテーマを選び、その解説と問題演習を通じて、試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員試験対策・数的処理b	本講義では、数的処理のうちの判断推理という分野において公務員試験に頻出のテーマを選び、その解説と問題演習を通じて、試験に臨むうえで役に立つ問題解答能力を養う。
公務員キャリア・プロジェクト実習a	公務員試験は、基本的に、教養試験、専門試験、論文試験、面接等で構成される。
公務員キャリア・プロジェクト実習b	本授業では、教養試験の中の文章理解(主に英語)について、公務員試験合格に向けた指導を行う。
国際関係論a	今日の国際関係は、国家と国際社会の大きな変容を受け、従来の枠組みでは捉えることは難しく、様々な要素が絡み合っ複雑な様相を示している。これは現代特有の事象なのだろうか、私たちは過去に学ぶことはないのだろうか。本講義では、こういった観点で国際関係の歴史的な流れを理解した上で、国際関係ならびに国家、国際社会について考えてみたい。したがって、国際関係の歴史の変遷を学習して、国際関係論の基礎固めを行う。さらに、現代の国際社会において発展したグローバリズムやリージョナリズムの特徴を持つ国際組織を取り上げ、いっそう複雑化する国際関係とその構成要素である国家について考察する。
国際関係論b	本講義では、変容する国際社会について理解を深め、国際関係というアプローチから、現代の国際社会の諸問題を考える。とりわけ国際社会と戦争、難民問題や国際人権への取り組み、グローバルな人の移動に関する諸事象などを取り上げ、国家という枠組みでは解決しきれない問題と国際社会について、そして今日の国際関係の在り様についても考える場とした。
国際競争法a	この講義では、国際的な競争法の進化、発展という観点から、オーストラリア連邦(Commonwealth of Australia)の競争法に焦点を当て、主要先進国・地域(米国、EU、日本等)の競争法との異同に着目しながら、その概要を理解する。オーストラリア競争法の本格的な整備は比較的新しく、コモン・ローの取引制限の考え方を前提としつつも、欧米先進地域の競争法、競争政策の成果を詳細に取り入れ、明文化する形をとっている。その意味で、現代の競争法、競争政策に関する知見が凝縮された存在ともいえる。オーストラリアのロースクール等で一般的に読まれている標準的なテキストを読み、オーストラリア競争法を通じて競争法の世界を垣間見ることがこの講義の最大の狙いだ。
国際競争法b	共同行為規制、単独行為規制、企業結合規制を中心に、オーストラリアのロースクール等で一般的に読まれている標準的なテキストを読み、オーストラリア競争法に対する理解を深める。

授業科目の名称	講義等の内容
国際金融論	この授業では、国際収支統計、外国為替取引と為替レート、為替リスクとそのヘッジ、さまざまな為替レートの決定理論とそれらの現実説明能力、為替相場制度と金融政策との関係、為替介入、通貨危機など、国際金融論の主要トピックについて、教科書に沿って講義します。授業レジュメの配布と、必要に応じてスライドの提示、板書などを行います。また、各回の授業内容について的小テスト(宿題)と、区切りのいいところで模擬試験(4回程度)を実施します。
国際経済学1	本講義の30回の授業のうち、7回は世界経済に関する入門的な内容を、23回は国際貿易論を扱う。世界経済入門に関してはGDP・貿易・対外資産・技術革新力で見た日本の実力、国際収支、為替レートと国際課税、アメリカ経済、中国経済、アジア経済、EU経済などについて講義する。国際貿易論ではリカードの議論、特殊要素、ヘクシャー・オリーンの議論、独占的競争と貿易、国際貿易に関する企業の意思決定、関税の余剰分析、GATT・WTO、FTAなどについて講義する。具体的な事例を用いたディスカッションを行う。
国際経済学2	本講義は「国際貿易論」を講義する。内容的には労働生産性と比較優位、特殊要素と所得分配、資源と貿易、規模の経済、多国籍企業、関税と輸入割当、VER、最恵国待遇原則とその例外、TRIPS協定、自由貿易協定と関税同盟、貿易創造効果と貿易転換効果などについて講義する。日本経済新聞の記事を用いたディスカッションを行う。
国際法a	国際法上特に問題となっている分野を中心に講義を進めていく。前半と比較して講義の中心が後半にかけては、ニュースなどで目にした問題も多く、比較的理解しやすいものと思われる。
国際法b	授業では、単に教科書に書かれていることを説明するのみではなく、理解促進のために、新聞等で話題となっている時事問題等ができる限り取り入れていきたい。
国内フィールドワーク実習1a	まちづくりPIに所属の学生はゼミ(専門演習)と連動してフィールドワーク実習を履修する。
国内フィールドワーク実習1b	本実習では、実際に現地に出かけて行って、フィールドワークによる現地調査及びそのための様々な準備を行う。
国内フィールドワーク実習2a	フィールドワークを実際に行うには様々な下準備や実施後の作業が必要となる(例えば、取材先の選定、取材依頼文書の作成、ヒアリングのためのアポイント取り、取材後のメモ書きなど)。これらの作業は相応の時間を要するとともに、単なる座学では身につけにくい性質のものであることから、本実習の時間を用いて実践的に学んでもらう。
国内フィールドワーク実習2b	
財政学1a	財政とは、政府の経済活動のことである。その役割の一つは、本質的な不安定性を持つ資本主義経済を安定化することである。それでは、現在日本経済が直面している長期停滞に対して、どのような処方箋が必要だろうか。また、未曾有の財政赤字による財政破綻の危機に対して、どのように対処すべきだろうか。経済学的に解明していく。 キーワード: 経済の安定化、成熟社会、アベノミクス、財政赤字、財政破綻
財政学1b	財政とは、政府の経済活動のことである。その財源は主として租税として調達され、社会保障をはじめとするさまざまな政府サービスに対して支出されている。公平で公正な税制とはどのようなものだろうか。所得税、消費税、法人税にはどのような意義や課題があるのだろうか。政府はどのような政府サービスを提供し、どのような課題があるのだろうか。本講義では、(財政活動の意義を全体として捉えた財政学1aに対して)財政活動を構成する一つひとつの要素に着目し、その検討を通じて財政活動の本質に迫る。 キーワード: 財政民主主義、租税制度、租税原則、タックス・ヘイヴン、社会保障、安全保障、政府サービス
財政学2	政府の予算を見ると、もっとも大きな割合を占めているのは30%を超す社会保障費である。社会保障は我々の生活を支えている。我々の生活は地域に根差しており、実際の運用に際して社会保障は国だけでなく、地方の役割が大きくなっている。また、1990年代以降の行財政改革、とりわけ2001年の省庁再編、それに続く平成の大合併などによって、国と地方のあり方も大きく変わっており、それは公共部門の歳入(税金、国債、地方債)や歳出のあり方にも必然的に及ぶことになる。財政学2では、我々の生活を支える社会保障を財政という面から学ぶことを一つの核にしなが、その前提として生活に密接にかかわる地方自治体の財政について学ぶ(なお、政府の歳出のなかで社会保障に次いで大きいのが地方交付税交付金等である)。講義では、前半に自治体財政について学び、後半に社会保障と財政の関係を学ぶ。
産業組織論	産業組織論を学ぶにあたっては、ミクロ経済学とゲーム理論の基礎を理解していなければならない。これらの基礎を授業でおさらいしつつ、授業計画に記載した個々のトピックごとの経済モデルを説明し、現実の経済現象への理解を深めていく。なお、経済モデルは数式で表されるものであり、モデルを解くための数学的な手法を学んでいくことにもなるが、モデルがどのような経済現象を説明してくれるのかという事例を十分に解説し、産業組織論が数式ばかりのつまらない理論ではないことが伝わるように授業を進めていく。
実践法律学プログラム刑事法a	
実践法律学プログラム刑事法b	
実践法律学プログラム民法総合a	
実践法律学プログラム民法総合b	
実践法律学プログラムビジネス法a	
実践法律学プログラムビジネス法b	
社会政策a	本講義では日本における社会政策の歴史を振り返りつつ、どのように関連する領域を理解することが出来るのか学びます。社会政策は誰が担当のかということを知るために、まず統治構造について学びます。次に、教育と労働を学びます。この時代の教育が社会政策として取り上げられることは少ないのですが、能力の育成という意味では労働とも深く関連しますし、学校は地域社会において重要な役割を担っています。労働は19世紀から20世紀にかけて社会政策そのものと考えられてきましたが、近年、社会政策に含まれることの意義さえも見失われています。しかし、労働は皆さんが社会に出てから、とても重要な問題ですから、しっかり勉強しましょう。 2020年からコロナの影響で、いろいろなことが大きく変わっています。様々な今の動きを見据えながら、教育、労働等ではそういう内容に変更する可能性があります。
社会政策b	この講義では日本における社会政策の歴史を振り返りつつ、どのように関連する領域を理解することが出来るのか学びます。現在、社会政策をもっとも体系的にしたものが社会保障であると言ってよいと思いますが、社会保障は1930年代から1940年代にかけて英米で作られたもので、それを日本は戦後、一つの目標にしてきました。しかし、それ以前から様々な社会労働行政は積み重ねられていました。この講義では、現代の社会保障に入らないような様々な流れを踏まえつつ、社会政策の全体像を理解したいと思います。具体的には、医療、統計(人口を中心)、社会福祉などについて学びます。授業は基本的に明治から現代に向けて少しずつ進んでいきますが、1回ずつトピックにしてあり、それぞれの回で現代とのつながりや他の回との関係も説明する予定です。
情報経済学	不確実性を数量化するための分析道具である確率から学び始めて、それに続いて状況や変数が確率的な場合の経済学・経営学の理論を学ぶ。確率から導かれる基本的な概念である期待値・分散や期待効用についても学ぶ。確率・期待値などについては就職活動の筆記試験に出てくるような問題も扱う。また与えられた情報を整理し、その情報の下で合理的な行動・選択を行うための具体的な理論・方法、および観測結果から原因の確率を得る手法であるベイズの定理、情報の非対称・不完全性に対する対処方法を学ぶ。 他には次の授業計画に挙げているように、確率・確率変数、相対度数、カルノー図、ベイズの定理、期待値、期待効用、新聞売りの問題を講義し、加えて情報の非対称性・不完全性とそれらへの対処方法を論じるレモン市場(情報の非対称性と逆選択)、モラルハザード、シグナリングとスクリーニング、エイジェンシー関係と不完全情報などを講義する。さらに組織やシステム論の中での情報の役割を学ぶ。なお、講義にはそれほど難しくはないが、しばしば数式が出てくることになる。

授業科目の名称	講義等の内容
人文地理学a	前期は人文地理学にとって重要な考え方や概念(分析ツールとしての地図、「景観/風景」、「空間/場所」概念など)を説明し、わたしたちを取り巻く日常生活の姿かたちを「景観」として捉え直したうえで、その社会的構築に関与するさまざまな意図や理念を読み込んでいく。
人文地理学b	後期は前期で学んだ考え方や概念の応用編として、とくに社会問題にかかわる場所イメージを取り上げ、それに関するさまざまな事例の紹介を通してその仕組みを読み解いていく。具体的にわかりやすい事例として映画を鑑賞することも考えている。
数的表現の基礎	大学入学までの数学の復習としての整式の計算・展開、因数分解、文字の式、一次方程式・二次方程式、連立方程式、確率、一次関数・二次関数とグラフを講義し、加えて微分、偏微分、統計について講義する。
生活経済論a	生活、すなわち我々の「暮らし」というのも、経済と切り離せないものであり、経済学の分析対象である。しかしながら、生活というものはあまりにも身近なものであり、だからこそその内容を捉え、分析することは難しいともいえる。何より、「暮らし」それ自体が多様な側面を持ち、人生において様々に変化していくものであることから、非常に幅広い内容を含むことになる。生活経済論では、そのような我々の「暮らし」について客観的に捉え、分析する方法を学び、加えて「暮らし」を支える諸制度についても合わせて学ぶ。これらは実際に「暮らし」を営む上で必要な知識でもあり、その意味で実践的であるともいえる。生活経済論aでは、働くことや家族にまつわることなど、ほとんどの人にとって「人生の選択」としてかかわることになる話題を中心に取り扱う。
生活経済論b	生活、すなわち我々の「暮らし」というのも、経済と切り離せないものであり、経済学の分析対象である。しかしながら、生活というものはあまりにも身近なものであり、だからこそその内容を捉え、分析することは難しいともいえる。何より、「暮らし」それ自体が多様な側面を持ち、人生において様々に変化していくものであることから、非常に幅広い内容を含むことになる。生活経済論では、そのような我々の「暮らし」について客観的に捉え、分析する方法を学び、加えて「暮らし」を支える諸制度についても合わせて学ぶ。これらは実際に「暮らし」を営む上で必要な知識でもあり、その意味で実践的であるともいえる。生活経済論bでは、社会保障がかかわる「暮らし」の側面を中心に、くらしで起こりえる事態についてどのように対応するのか、できるのかということを中心に扱う。
政治経済学a	<p>制度経済学(institutional economics)とは、市場の他にも法律や慣行など人々の経済活動を調整するもの、つまり制度(institution)があることに注目し、市場と制度に基づく経済調整の特徴やその変化の傾向、問題点(経済調整の機能不全)を明らかにし、そして、制度修正の方向性を提示しようとする学問である。</p> <p>私たちは、家庭で生活し、文化的・政治的な活動をするのはもちろんのこと、家庭や学校、職場で培った技能や知識を活かして生産し、収入を得て、それを消費したり投資したりするといった経済的な活動を行っている。社会的分業と企業内分業が発展した現代社会における経済活動のなかには、個人が単独で行えるものはほとんどなく、ほぼすべての経済活動は、相手ありきの相互行為(trans-action)、つまり取引(transaction)になっている。取引の例は、市場での商品の売買、企業内での命令と服従にもとづく賃労働、そして、政府や公益企業が供給する様々な公共サービスの利用など枚挙にいとまがない。これらの取引は、企業間取引においては独占禁止法や様々な取引慣行によって、賃労働関係においては労働法(労働契約法、労働基準法、男女雇用機会均等法、最低賃金法など)や様々な労働慣行によって、公共サービスにおいては議会などが決める公共サービスの受給資格や料金などに関する法や規則によって、安定的に調整されている。言い換えれば、人々の間の取引は制度化(institutionalize)されている。</p> <p>本講義が対象とする制度とは、このように、諸個人、企業、国家などの経済主体の取引を調整する言語化された/されていないルールのことである。その例として、法律、合意された協約や規則、慣習(社会である程度共通してみられるような思考と行動)、規範が挙げられる。さらに、経済を論じるうえでその存在と機能が自明の前提となっている貨幣自体もまた、制度と切り離すことはできない。標準的な経済学では、貨幣をあたかも金(きん)などの商品のように捉えているが、貨幣は商品ではなく、銀行システムなどの諸制度(「債務システム」)によって創造され、流通している数字の記録である。企業が銀行から資金を借り入れて投資をおこなうとき、銀行のシステムには新しい債権債務関係が記録(創造)される。この信用創造すなわち貨幣の創造は、借り手が将来の事業収益を予測して銀行を説得し、銀行は貸倒れのリスクを評価して貸出の可否や利率や担保などの貸出条件を判断するという、両者の将来予測をめぐる交渉の結果(合意)として生じる。この貸出金は、銀行のシステムにある借り手の口座に記録される。そして、売買取引の決済は、ある銀行のシステム内、あるいは、全銀ネットや日銀ネットという決済システムを介して処理される。このように、貨幣の創造と流通は、信用取引(現在の貸出と将来の返済をめぐる合意)と債権債務関係を記録する銀行システムによって成り立っている。そのように考えると、貨幣はモノではなく制度そのものといえる。</p> <p>本講義では、目まぐるしく変化し、課題が山積している日本経済ないし世界経済の仕組みと動向を理解するために、制度の視点からそれらにアプローチ(接近)し、将来への展望を考えていきたい。特に、政治経済学aでは、「制度経済学」とは何か、「制度としてのおカネ」とは何か、「望ましい制度変化(合意形成)プロセス」は何か、を重点的に考えていきたい。それらにより理解し、応用するために、新聞記事などを活用して時事的な出来事も取り上げ、制度経済学の観点から論評することもある。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
政治経済学b	<p>制度経済学 (institutional economics) とは、市場の他にも法律や慣行など人々の経済活動を調整するもの、つまり制度 (institution) があることに注目し、市場と制度に基づく経済調整の特徴やその変化の傾向、問題点 (経済調整の機能不全) を明らかにし、そして、制度修正の方向性を提示しようとする学問である。</p> <p>私たちは、家庭で生活し、文化的・政治的な活動をするのはもちろんのこと、家庭や学校、職場で培った技能や知識を活かして生産し、収入を得て、それを消費したり投資したりするといった経済的な活動を行っている。社会的分業と企業内分業が発展した現代社会における経済活動のなかには、個人が単独で行えるものはほとんどなく、ほぼすべての経済活動は、相手ありきの相互行為 (trans-action)、つまり取引 (transaction) になっている。取引の例は、市場での商品の売買、企業内での命令と服従にもとづく賃労働、そして、政府や公益企業が供給する様々な公共サービスの利用など枚挙にいとまがない。これらの取引は、企業間取引においては独占禁止法や様々な取引慣行によって、賃労働関係においては労働法 (労働契約法、労働基準法、男女雇用機会均等法、最低賃金法など) や様々な労働慣行によって、公共サービスにおいては議会などが決める公共サービスの受給資格や料金などに関する法や規則によって、安定的に調整されている。言い換えれば、人々の間の取引は制度化 (institutionalize) されている。</p> <p>本講義が対象とする制度とは、このように、諸個人、企業、国家などの経済主体の取引を調整する言語化された／されていないルールのことである。その例として、法律、合意された協約や規則、慣習 (社会である程度共通してみられるような思考と行動)、規範が挙げられる。さらに、経済を論じるうえでその存在と機能が自明の前提となっている貨幣自体もまた、制度と切り離すことはできない。標準的な経済学では、貨幣をあたかも金 (きん) などの商品のように捉えているが、貨幣は商品ではなく、銀行システムなどの諸制度 (「債務システム」) によって創造され、流通している数字の記録である。企業が銀行から資金を借り入れて投資をおこなうとき、銀行のシステムには新しい債権債務関係が記録 (創造) される。この信用創造すなわち貨幣の創造は、借り手が将来の事業収益を予測して銀行を説得し、銀行は貸倒れのリスクを評価して貸出の可否や利率率や担保などの貸出条件を判断するという、両者の将来予測をめぐる交渉の結果 (合意) として生じる。この貸出金は、銀行のシステムにある借り手の口座に記録される。そして、売買取引の決済は、ある銀行のシステム内、あるいは、全銀ネットや日銀ネットという決済システムを介して処理される。このように、貨幣の創造と流通は、信用取引 (現在の貸出と将来の返済をめぐる合意) と債権債務関係を記録する銀行システムによって成り立っている。そのように考えると、貨幣はモノではなく制度そのものといえる。</p> <p>本講義では、目まぐるしく変化し、課題が山積している日本経済ないし世界経済の仕組みと動向を理解するために、制度の視点からそれらにアプローチ (接近) し、将来への展望を考えていきたい。特に、経済政策1では、「制度経済学」とは何か、「制度としてのおかネ」とは何か、「望ましい制度変化 (合意形成) プロセス」は何か、を重点的に考えていきたい。それらをより理解し、応用するために、新聞記事などを活用して時事的な出来事も取り上げ、制度経済学の観点から論評することもある。</p>
西洋史概説a	まず、古代から現代にかけての「ユダヤ人の歴史」について講義し、西洋史を学ぶ意義、重要性について実感してもらう。そのうえで、西洋文明の遡源とされる古代ギリシア文明の成り立ちから概説していく。その後扱う予定のテーマについては、下記の授業計画を参照。各回に共通して、歴史的出来事がどのような社会的・文化的状況と結びついているか、またその出来事が現代の我々にどのようなかたちで関連を有しているかについて意識しながら講義する。
西洋史概説b	
世界経済史a	歴史とは何かについて、学生が主体的に問い、考察する授業である。その事例として、貿易 (交易) や人の移動を扱う。また、その時々に応じた経済理論を紹介する。授業では学生による発表、学生同士のディスカッション、小論文の作成を行う。
世界経済史b	歴史的事実とその解釈について、学生が主体的に問い、考察する授業である。中世以降、貿易 (交易) が現代に及ぼした影響を題材とする。授業では学生による発表、学生同士のディスカッション、小論文の作成を行う。
世界地誌学a	<p>「歌は世につれ、世は歌につれ」とよく言われる。現代ポピュラー音楽は特定の民族的特色を持った音楽を起源として、ある地域や国家における社会的・文化的・政治的状況のなかで成立し、時代の流れとともに民族や国家を越えて伝播し変容し洗練されてきた。</p> <p>本講義は地誌学の方法論や講義で紹介する地域の概観を踏まえたうえで、こうした状況を読み解きながら、ポピュラー音楽が成立し変容する過程をたどることによって、地域や国家への理解をより深めることを目的とする。特に、本年度はアメリカ、ジャマイカ、スペインを扱う。</p>
世界地誌学b	<p>現代アジアには様々な民族が生活しており、様々な社会問題が起こっている。本講義は、現代アジアの国々とそこで生活する人々の等身大の姿に迫り、異なる文化や地域の実態を学ぶことによって、豊かな国際感覚と空間認識を身に付けることを目的としている。</p> <p>講義のなかでは、まず対象とする地域およびその周辺の地誌的概観を論じて、講師の近年のフィールドワークの成果や時事問題なども随時取り入れて紹介したい。</p>
専門演習1a	
専門演習1b	2年次より『専門演習 (ゼミ)』に所属し、少人数制のもとで学生と教員が密度の高いコミュニケーションをはかりながら、専門知識の習得とともに、自らが主体的に学ぶ姿勢を確立する。
専門演習2a	専門演習は1年後期に募集があり、各学生が所属する専門演習が決定すると、それと同時に、そのゼミに関連付けられた一つの専門科目パッケージが「卒業要件対象パッケージ」に指定される (このパッケージの科目が卒業するのに必要な選択必修科目に含まれることになる)。
専門演習2b	
専門演習3a	
専門演習3b	
租税法a	
租税法b	
卒業論文a	<p>① 卒業論文の作成に向けた指導は「専門演習3」の担当教員によって行われる。「卒業論文」の修得を目指す諸君は、第一段階として、12月の設定された期間に第一稿を必ず提出し、副査の審査を受けなければならない。次に、第二段階として、副査の審査意見を踏まえ、担当教員のさらなる指導を受けて原稿を修正し、最終稿を1月の設定された期間に提出する。なお、第一稿・最終稿の正確な提出期間については、「専門演習3」の担当教員に確認すること。</p> <p>② 「卒業論文」の修得を目指す諸君は、指導にあたる担当教員と頻りに連絡をとりあい、年度を通じて計画的な学習に努めなければならない。論文は、何度も書き直しを命じられることを覚悟しておくこと。なお、履修上の留意点については以下に概要を記してあるが、その他の詳細については「履修要綱」を熟読し、また、「専門演習3」の担当教員の指示を仰ぐこと。</p> <p>③ 担当教員が第一稿の提出を許可しなかった場合、またその他正当な理由なく第一稿が提出できなかった場合は第二段階に進めず、この時点で「卒業論文」の単位修得が不可能となるので注意すること。</p>
卒業論文b	
大学入門演習a	<p>授業は、クラスごとの活動と全クラス共通の活動によって構成されている。</p> <p>クラスごとの活動では、各担当教員の指示のもと、教科書や教材を用いて大学生活に必要とされるスタディ・スキルズを習得し、それらを活用して課題に取り組んでいく。具体的には、文章要約や調査報告、レポート作成などの課題が課せられる。全クラス共通の活動としては、大学の制度や施設、経済学部についての理解を深め、知識の習得やキャリア・アップを円滑におこなうためのオリエンテーションやガイダンス、交流会などがおこなわれる。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
大学入門演習b	授業は、クラスごとの活動と全クラス共通の活動によって構成されている。クラスごとの活動では、各担当教員の指示のもと、教科書や教材を用いて大学生活に必要とされるスタディ・スキルズを習得し、それらを活用して課題に取り組んでいく。具体的には、少人数グループによる共同調査およびプレゼンテーションに関する技術の習得などである。 全クラス共通の活動としては、クラス対抗のプレゼンテーション大会である課題成果報告会や、二次次から所属する専門演習についてのガイダンスなどがおこなわれる。
地域経済論a	授業では、理論等の解説と同時に、豊富な統計データや具体的な事例紹介を行うことを通じて、地域経済、特に地元である関西の経済・産業・企業の現状と課題について理解を深めてもらう。
地域経済論b	授業では、理論等の解説と同時に、豊富な統計データや具体的な事例紹介を行うことを通じて、地域経済について理解を深めてもらうことを目的としている。日本の地域政策・国土政策の歴史を辿りつつ、地域政策の理論と実際について学ぶ。
地方財政	一般に、政府は中央政府と地方政府に区別することができるが、本講義では、私たちの暮らしにより身近な地方政府の経済活動＝地方財政について取り上げる。 国と地方、という言い方をすると「国に従属する／すべき地方」というイメージを持つ人も多いが、これは必ずしも正しくない。個人が国家の単なる付属物ではないのと同様、地方政府も中央政府の単なる付属物ではない。国家主権と地方自治、ひいては個人の自由との補完関係と緊張関係を丁寧に考えていく必要がある。 本講義では、地方自治に関する基本的な理解を踏まえた上で、地方政府の役割と活動について、現状と課題について学び、様々な視点から共に考えていく。
中小企業・ベンチャー論a	本講義では、まず中小企業とは何かについて、データ等を用いて確認するところから始め、多くの中小企業が活躍する工業と商業の世界に焦点を当て、下請制・国際化による影響等の中小工業問題、商店街の衰退・再生等の中小商業問題について見ていく。その後、中小企業の経営問題のうち重要な人材問題、資金問題について取り上げる。以上について、事例を紹介しながら進め、リアルな形で理解できるようにしていく。
中小企業・ベンチャー論b	本講義では、前半は戦後日本経済の歩みについておさえながら、当時の中小企業の状況と政策的対応内容について確認していく。後半は起業活動の動向とその期待内容について把握するところから始め、ベンチャー企業と一般的な中小企業との違いは何かについて確認していく。さらに、起業家の特質とは何かについて、各種調査結果から把握するとともに、イノベーションを基軸としたベンチャー企業経営の実情と期待、課題について見ていく。最後に、ベンチャー企業の創出・発展のための支援内容について確認する。以上について、事例を紹介しながら進め、リアルな形で理解できるようにしていく。
データベース管理	「Microsoft Office Specialist Access 365&2019 エキスパート」試験を受験するのに十分なレベルの力が身につくように、より実践的な問題演習にも取り組む。また、e-Learning(Webテスト)を利用した能動的な学習を実施する。
哲学概論a	日本の学校教育において「哲学」について学ぶ、あるいは教えるという経験は、決して多くはない。だからこそ、「哲学」に関する知識や発想が、なぜ必要なのか、生きていくことにどう活かされるのかという点についても、分かりづらかったり、知らなかったりすることが少なくない。ゆえに、「哲学」や思想をめぐって、どのような考え方や捉え方について知るとともに、そこからどのように自分なりに問うていくかということが、さまざまな問題を抱えている現代社会をどう生きていくかを、自分なりに考えるという機会が必要となる。
哲学概論b	本授業では、こうした問題関心をふまえながら、「哲学」という當みの意義や役割、課題について、哲学や思想の歴史を概観することを手がかりにしながら考察し、講義を行う。第1回目から第15回目までは、どんなことが、なぜ、どのように問われてきたのか、という点が、社会や文化、人が生きていくことにどのように影響を与えてきたのかを、哲学者や思想家をとりあげながら考察・検討する。第16回目から第30回目では、哲学に関する基礎知識や、哲学的なものの見方・考えなどをふまえながら、日常生活の中では立ち止まって考えづらい「哲学の基本主題や、現代社会が抱えている諸問題と哲学とのつながり」について考察や検討を行う。
統計学1a	(経済学のための記述統計の基礎(基本的な資料とデータの分析)) 統計学は、集団現象に関するデータを収集し、その集団の特質をデータに基づいて記述・推測する方法に関する科学である。 この講義では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計データの整理と要約を中心とした記述統計の基礎的な考え方と手法を修得する。修得した考え方や手法を経済学へ応用するための力を培うことも目的となっている。 官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読みこなす力、各種のレポートや論文を作成するのに役立つ技術と考え方を修得できるようにしたい。電卓を用いることを基礎としつつ、適宜、エクセルやSPSSを用いた統計分析を行うこととする。
統計学1b	経済学のための推測統計の基礎 統計学は、集団現象に関するデータを収集し、その集団の特質をデータに基づいて記述・推測する方法に関する科学である。 この講義の目的は、統計学1aに続き、確率論の基礎、統計量の分布、推定と検定を中心とする数理統計の方法について、その考え方の基礎部分を修得することである。 具体的には、データを用いて応用的な統計分析をエクセルやSPSSを用いてできるようになることを目的とする。統計学1aと同様に、各種のレポートや論文作成に役立つ技術と考え方の修得を目的としている。
統計学2	統計的問題解決力の修得 統計学は、集団現象に関するデータを収集し、その集団の特質をデータに基づいて記述・推測する方法に関する科学である。 この講義の目的は、統計学1a、統計学1bに続き、「大学基礎科目としての統計学の知識と統計的問題解決力」(統計検定ホームページ)を培い、「統計検定」への合格を目指す。
東洋史概説	前半では、中国についての基礎的な知識を習得させ、後半では、中国歴代王朝の歴史を解説する。
日本経済史a	第1回ではガイダンスに続き、マクロ諸指標を使って戦前日本の経済の成長過程を概観する。第2回からは各時期の日本の社会経済システムをその特徴を明らかにしながら講義する。
日本経済史b	第1回目にガイダンスを行い、次に後期の内容への導入として日本経済史aの内容を復習する。第2回以降戦時期から現代に至る日本経済の軌跡を、各時期の社会経済システムとその特徴を明らかにしながら講義する。
日本経済論a	本講義では、戦後の日本経済の推移をマクロ経済学の理論に基づきながら解説する。まず、財市場、貨幣市場、労働市場の役割についてのマクロ経済理論を紹介する。そのあと、最近の日本経済の重要なトピックスについて解説する。つづいて歴史をさかのぼり具体的に、高度経済成長期を経て1970年代まで、日本経済がどのように変化してきたのかを年代ごとに整理する。そのうえで、各期においてとりわけ重要な問題を解説する。

授業科目の名称	講義等の内容
日本経済論b	本講義では、とくに1970年代以降の日本経済をテーマごとに解説していく。具体的には、まず、マクロ経済学の基本理論と高度経済成長期から今日に至るまでの日本経済について再説する。次いで、授業計画に掲げたテーマに即してこの間に日本経済がどのような変化を遂げてきたのかをみていく。授業計画の後半は、日本経済をとりまく最新のトピックスも交えることも考えている。学生は日本経済論abをセットで学修することで、戦後の日本経済の歴史と現状を理解し、自分で今の日本経済をどうみるか考える能力を得ることができるようになる。
日本史概説1	日本古代から近現代までの文献史料および古代の出土文字資料・金石文などの歴史資料を講読・積読することによって、7世紀から19世紀に至る日本の歴史を多角的・通史的に概観する。それぞれの時代を代表する歴史資料の中から、日本の歴史上、重要な事項に関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義によって教授した後、個別史料の講読・積読を進めていく。
日本史概説2a	日本古代から近現代までの文献史料および古代の出土文字資料・金石文などの歴史資料を講読・積読することによって、7世紀から20世紀前半に至る日本の歴史を多角的・通史的に概観する。それぞれの時代を代表する歴史資料の中から、日本の歴史上、重要な事項に関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義によって教授した後、個別史料の講読・積読を進めていく。
日本史概説2b	日本古代から近現代までの文献史料および古代の出土文字資料・金石文などの歴史資料を講読・積読することによって、7世紀から20世紀前半に至る日本の歴史を多角的・通史的に概観する。それぞれの時代を代表する歴史資料の中から、日本の歴史上、重要な事項に関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義によって教授した後、個別史料の講読・積読を進めていく。
日本地誌学a	本講義では、地域・都市が持つ特徴とそれを説明する要因、またそれぞれの地域・都市において政策、社会・経済、文化・芸術といった領域との関連性について学びます。特に、地理学の視点から、地域・都市をめぐる人文の諸事象が政策、社会・経済、文化・芸術などといった諸領域の中で、どのような特徴やどのような相互関係があるのかを総合的に、実践的かつ総合的に日本地誌学を学びます。
日本地誌学b	本講義では、地理学の視点から、地域・都市をめぐる人文(社会・経済・歴史・文化・芸術など)の諸事象の相互関係を総合的に考察し、実践的かつ総合的に日本地誌学を学びます。
農業経済論	本講義では我々が生きていくうえで欠かせない食料を生み出す産業である農業の社会的役割を学習するとともに、その産業としての特徴と重要性を理解することを目指します。その際、社会科学の強力なツールである農業経済学及びミクロ経済学の知見を援用して理解しようとするところに本講義の特徴があります。農業は産業として最も歴史が古く、それがゆえに人間社会の発展において重要な役割を果たしてきました。また、農業は他の産業とは、大きく異なる特徴を有するため、その特徴の理解は農業そのものを理解するうえで重要となります。さらに、農業が生み出す農産物は人間が生きていくための必需品であり、我々の経済社会の中で他の経済財(商品)とは異なる振る舞いをするため、その扱いには注意を要する場合があります。こうした点に特に注意しながら、農業の経済社会における役割について経済学の枠組みを用いて理解することを目指します。なお、高校程度の簡単な数学を用いるが、必ずしも履修の条件とはしません。 講義は1日当たり2コマ連続で行いますが、2コマのうち前半は座学による農業経済学の知識の修得を中心とし、後半は映像教材の視聴や受講生同士の議論によって学習を進めます。それぞれのコマ終了時に簡単な課題を課します。
パソコン統計分析	「ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック」試験を受験するのに十分なレベルの力が身につくように、より実践的な問題演習にも取り組む。また、e-Learning(Webテスト)を利用した能動的な学習を実施する。
判例研究の手法	本学部では体系的な法律学に関する授業を受けることが出来るが、時間の関係上、判例研究にまで進むことが出来なかった。この授業では生きた法の最たるものといえる最高裁判所の判決を実務家や研究者がどのように研究しているのか、という作業を体験することを目的とする。まさに法律学のプロの仕事に触れることを目指すものとなる。 ※ビジネス法パッケージの学生以外であっても、本格的な法律学の授業とはどのようなものか興味がある学生の参加を歓迎する。
ビジネスデータ分析a	Excelはビジネス・データを処理し分析するための専門的かつ実践的な利用が可能なソフトであるが、その利用方法を講義する。具体的には、まずExcelの基本的機能、各種関数、データベース機能を説明し、それに続いて、基礎的統計量とその利用方法、データを整理しその傾向や特徴を見つける方法、損益分岐点、ABC分析、実際の販売データの分析などを学ぶ。
ビジネスデータ分析b	Excelを使ったデータの集計方法と度数分布表の利用方法を学び、Excelを利用した価格と需要の分析を行い、需要の回帰分析を学ぶ。その後、新聞タイプの財を中心にExcelを用いた在庫分析を学ぶ。新聞タイプの財とは販売期間が過ぎると価値が無くなるまたは下がる財である。それに関連して、確率分布を使った分析も学ぶ。Excelには少し専門的だが利用範囲が広く有用な機能として、Excel VBAとExcelソルバーがある。前者は、Excelのプログラム機能で各種の計算・操作を自動化することができ、後者はビジネスにおける各種の最適化問題を解くことができる。前者については、その利用方法を紹介し、後者については、各種の利用例を説明する。
ファイナンス論	本講義では、ミクロ的な視点から、企業、個人、政府などの経済主体の金融行動に関する基礎概念や理論を解説する。金融の本質と役割も一緒に考えていきたい。

授業科目の名称	講義等の内容
ファシリテーション入門	<p>ファシリテーション (facilitation) とは、人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶように舵取りすることです。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得します。</p> <p>「多様性」がキーワードとなっている今日、まさにファシリテーションは、様々な専門性・実務経験を持った人材が集まり、それぞれの専門性を結び合わせる、あるいは融合させるために必要なスキルです。</p> <p>様々な問題の解決に必要な集合知を生み出すことは、VUCAの時代の到来と言われる現代、今までの経験を活かすことではうまくいかない、正解のない中、立場の違う人々の声を集めて何が妥当で適切か選択していくために必要なスキルとしてファシリテーション力が求められています。現代のリーダーシップも大きく変化し、支援型ファシリテーションリーダーシップが不可欠です。</p> <p>ファシリテーションを身につけることで、主体的チーム活動、異なる属性の交流など人との関係性のつくり方が容易になり、失敗から学ぶという経験を体感的に得ることができます。ゼミや授業、クラブ活動はもちろんのこと、インターンシップでの学びを深める行動ができることでしようまた、授業の中でコミュニケーション、人との関わり方を学び高めていくことができます。</p> <p>講師：竹本 記子(たけもとりのこ) キャリアヴィーボ 代表 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会会長 阪南大学経済学部卒業生。企業や行政・教育機関での対話の場づくりの企画・運営や企業研修(ダイバーシティ推進、ファシリテーション研修などヒューマンスキルなど)を行う一方、大学生を中心に中学からや社会まで幅広いキャリア開発も行っている。世界中とつながったオンライン・ワークショップも実施するなど、オンラインでのワークショップ経験も豊富。「自分で選択し、行動する」喜びを再認識し、積極的に未来と関わることを大切にしています。多様な人が響き合う場づくりを行うことで、生きる喜びと誇りを実感できる社会づくりの実現を目指しています。</p>
貿易実務実践	<p>貿易取引のパターン、契約、モノ・カネ・情報の流れ、サプライチェーン、ロジスティクス、関税、コンプライアンスについて事前課題レポートを提出してもらい、それを授業内で深掘りしながら、貿易実務の基礎概要を説明する。講師の大手企業での38年の海外関連の営業・業務経験(うち12年は北米での体験)での経験談を含みながら実践的な講義を行う。</p>
貿易実務入門	<p>データベースから世界における日本の位置づけを読み解き、海外を知ることの楽しさについて理解を深める。講師は、大手企業での38年の海外関連の営業経験をしたが、語学力よりもコミュニケーション力が重要であるということを感じてきた。つまり、受講生には英語に対する考え方もアップデートしてもらえ。なお、毎回、受講生に発表・討議してもらう機会を設ける。</p>
法解釈学入門	<p>経済学を専攻しながら体系的な法学の学修を行えるのが本学部の特色ともいえるが、その事実を知ったときには既にゼミ選択も終わっていてどうしようもないという告白をされる学部生の皆さんの声に少なからず接して来た。法学研究会も含む様々な機会を通じて個別指導も実施してきたが、やはり「今からでも法学の学修を開始出来る」と思える科目があった方が良くと思い企画した授業である。</p> <p>まずはいろいろな法律の条文に触れることで、まずは法学というものになじんでもらうことを目標とする。法学はとっつきにくいものの、基礎をしっかり身につければ面白さも感じられる。</p> <p>とにかく、まずはものは試し、という感じで気軽に参加してもらい、授業を受けることで法学に対する関心を深められるような講義を心がけたい。</p> <p>※ ビジネス法パッケージの学生以外であっても、本格的な法学の授業とはどのようなものか興味がある学生の参加を歓迎する。</p> <p>※ 以上は予定であり、受講者の理解度や関心によって内容が変更となる可能性がある。</p> <p>※ なお、教育効果を高める観点(例えば、試験の実施後に講義を行い、問題解説をする場合や、授業開始から図書館実習を先行させてから、解説を行う場合、学外でのフィールドワークを実施する等)から、連続授業の形で授業を実施するために、取って補講(およびその分について通常授業の一部休講)を行う場合もある。その場合は受講生と相談の上で行うが、上記のスケジュールに変更が生ずる可能性もあることをお断りしておく。</p> <p>※ 新型コロナ禍の影響で遠隔授業となる場合も考えられる。授業の進め方について変更が生じる可能性もあるため、適宜、授業中に指摘する。</p>
簿記初級a	<p>簿記・会計は、ビジネスパーソンに必須の基礎知識であり、経理・財務担当以外でも、職種にかかわらず評価する企業が多いです。</p> <p>基本的な商業簿記を修得することで、経理関連書類の適切な処理や青色申告書類の作成など、初歩的な実務がある程度できるようになります。また、中小企業や個人商店の経理事務に役立ちます。</p>
簿記初級b	<p>初学者を対象としているため、授業では、簿記・会計で必要とされる基本用語と簿記・経理システムを平易に解説します。簿記は、繰り返し練習するのがコツですから、講義中にも、練習問題を実施することで実力を養います。</p>
簿記中級	<p>「簿記初級」科目を履修済みか、もしくは、それと同等の知識(簿記3級レベルの仕訳を理解している)を有している学生を対象としているが、授業では、「簿記初級」の内容を復習しつつ、簿記・会計で必要とされる基本用語と簿記・経理システムを平易に解説しながら応用論点を学習します。簿記は、繰り返し練習するのがコツですから、講義中にも、練習問題を実施することで実力を養います。</p>
マクロ経済学1	<p>授業の前半では、財市場と貨幣市場を中心に一国経済全体の動きの仕組みと伝統的なマクロ経済モデルを学ぶ。具体的には、最初に、基礎マクロ経済学(国民経済計算の基本や45度線モデル)の復習を行う。これらを応用して財市場の均衡モデル(IS曲線)を導く。続いて貨幣や金融資産の性質を学び、貨幣市場の均衡モデル(LM曲線)を導く。そして、両者を統合して伝統的なIS/LMモデルを設定し、このモデルの操作方法を学ぶ。これにより国内総生産と利子率がどのように決まるのかを理解することができる。</p> <p>授業の後半には、開放経済モデルを重点的に学ぶ。具体的には、まず為替レート理論モデルと国際収支表の読み方を理解し、前半に学習したIS/LM分析を応用しながら、マンデルフレミングモデルについて解説する。最終到達点として、マンデルフレミングモデルのフレームワークにおいて、経済を安定化させるためにどのような経済政策が有効になるのかを説明できるようにすることを目指す。これにより国内総生産と利子率、さらに為替レートがどのように決まるのかを理解することができる。</p>
マクロ経済学2	<p>まず、マクロ経済学1(マンデルフレミングモデルまで)の復習を行う。続いて、労働市場の機能を踏まえた中期の総需要・総供給モデル、消費と貯蓄、および投資をトビックスとしてマクロ経済現象のミクロ経済的基礎を説明する経済モデルを修得する。最後に景気循環と経済成長理論の課題と簡単なモデルについて学ぶ。</p>
ミクロ経済学1	<p>どのような人々や企業がそれぞれどのようなものをどれだけ使うかを、「資源配分」と呼びます。ここで言う「使う」には生産のために必要なものを使うことや人を雇うことも含んでいますので、どのような企業がどのようなものをどれだけ生産するか、といったことも「資源配分」という言葉の意味に含まれています。この資源配分に関わるいろいろな問題を分析するのが、ミクロ経済学という学問です。この科目「ミクロ経済学1」では、そうしたミクロ経済学で用いられる代表的な分析手法の使い方を紹介していくことで、ミクロ経済学では問題をどのように捉え、解決しようとするかを習得してもらうことを意図しています。実際、ミクロ経済学は他のいろいろな分野で行われている分析の基本になっており、この授業の履修者もこの授業での学習した分析手法をそれぞれが関心を持つ問題に活用できるようにすることを期待しています。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
ミクロ経済学2	どのような人々や企業がそれぞれのどのようなものをどれだけ使うかを、「資源配分」と呼びます。ここで言う「使う」には生産のために必要なものを使うことや人を雇うことも含んでいますので、どのような企業がどのようなものをどれだけ生産するか、といったことも「資源配分」という言葉の意味に含まれています。この資源配分に関わるいろいろな問題を分析するのが、ミクロ経済学という学問です。そうしたミクロ経済学の基礎のうち、「ミクロ経済学1」では競争市場を前提とした範囲を主に扱いましたが、この「ミクロ経済学2」では財を供給する企業に競争が無いことを前提とした分析を中心に扱います。
民事訴訟法	本講義では、いくつかの具体的事例をベースとして、①民事訴訟(民事裁判)手続、②裁判外紛争解決手続(ADR)、③家事手続(家事調停・家事審判・人事訴訟)、④民事執行手続、⑤民事保全手続、⑥倒産処理手続(破産、民事再生等)の概要および基本理念について解説していく。随所で学生諸君の発言を求め、ときにはディスカッション形式を併用して、上記の理解を深める。理解を促進するため、各回の講義終了時に確認テストを実施する。
民法a	我が国民法は全1050条、これが全5編、総則、物権、債権、親族、相続に分かれている。本講義ではこれら全体の内容を、薄く広くではあるが、概説する。ただし本講義は民法bとセットが前提なので、大体のところ民法全体の半分が授業の範囲となる。
民法b	我が国民法は全1050条、これが全5編、総則、物権、債権、親族、相続に分かれている。本講義ではこれら全体の内容を、薄く広くではあるが、概説する。ただし本講義は民法bとセットが前提なので、大体のところ民法全体の半分が授業の範囲となる。
ヨーロッパ経済論a	現代のヨーロッパ経済は、EU(欧州連合)の存在抜きに考えることはできません。なぜなら、EUはヨーロッパの27もの国が加盟しているだけでなく、加盟国が必ず従わなければならない超国家的な「EU法」を制定し、EUに加盟する多くの国(19カ国)が共通の通貨(ユーロ)を使用するなど、一つの連邦国家を形成するような「統合」の動きを進めつつあるからです。この授業では、EUの歴史と制度を概説した後、EUが進めてきた経済統合の経済効果について、主に「関税同盟」と「市場統合(単一市場の創設)」を対象として説明します。経済統合が資源配分の効率性や、経済成長の諸要因にどのような影響を与えたかを、プラス面、マイナス面ともみたと後、失業率の高い国が多いEU諸国の労働市場をめぐる問題について説明します。
ヨーロッパ経済論b	現代のヨーロッパ経済は、EU(欧州連合)の存在抜きに考えることはできません。なぜなら、EUはヨーロッパの27もの国が加盟しているだけでなく、加盟国が必ず従わなければならない超国家的な「EU法」を制定し、EUに加盟する多くの国(19カ国)が共通の通貨(ユーロ)を使用するなど、一つの連邦国家を形成するような「統合」の動きを進めつつあるからです。この授業では、ユーロを生み出したEUの通貨統合について、主に国際金融論的な分析に基づいて説明します。為替相場制度と各国金融政策との関係の理解に基づいてEUの通貨統合のプロセスを説明し、ユーロ圏(共通通貨ユーロを使用するEU諸国の領域)の財政・金融政策の特徴を考察した後、共通通貨使用の合理性を検討する「最適通貨圏の理論」に照らして、ユーロ危機の経済的背景について考えていきます。
留学英語ステップ1a	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。
留学英語ステップ1b	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。さらに流暢に話せるようになります。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。
留学英語ステップ2a	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。
留学英語ステップ2b	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。さらに流暢に話せるようになります。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。
留学英語ステップ3a	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。
留学英語ステップ3b	留学先のクラスや日常生活において必要となる基礎的な語彙や会話表現を、ロールプレイやアクティビティを通して身に付けます。また、発音、音節、強勢などに注意を払いながら練習し、「ネイティブの発音」が聞き取れる耳と「ネイティブみたいな発音」ができる口を持つことを目指します。留学先で話題になりそうなトピックについて、「異文化の人と話す」ことを意識して言う内容を考え、語彙や言い回し、話しかけ方、質問のしかたも含めた会話法を学び、クラスで繰り返し練習することで会話に慣れ、実際の場面で考え込むことなく積極的に英語での会話を行えるように力を付けていきます。さらに流暢に話せるようになります。最後に、留学・旅行先になり得る国をテーマに、少し長めのリスニングで耳の力試しをしてみましょう。

授業科目の名称	講義等の内容
留学入門講座	海外で生活を送るために必要な手続きや知識、心構えについて事前に学び、留学生生活をより有意義なものにできるよう準備を行います。入国の手続きや、ホームステイ先、寮生活でのマナー、留学先の国と日本の文化の違いについて事前に知り、海外での生活で直面する可能性があるトラブルやカルチャーショック、ホームシックなど様々な問題への対処法を考えます。英語圏で日常生活や学校生活を送る際に必要な基本的な英会話表現にも触れながら実際の留学生生活をイメージし、各自が留学前と留学後で自分自身にどのような変化が起こるのか、実りのある留学とは何かについて考えます。
倫理学概論a	古代から近代までの宗教・倫理思想について概説と、生命倫理・環境倫理といった応用倫理について講義する。高校で倫理を学んでいない学生にも興味を持てるように、必要に応じて新聞記事や映像資料なども用いて講義する。また、受講生に哲学・倫理学の文献を実際に読んでもらうこともある。また、学生の知識の定着や理解度ををはかるために、定期的に試験を実施する。
倫理学概論b	
レポート作成の基礎	レポートや論文の作成に必要な事柄の講義、および講義を踏まえての実際の文章作成を行う。引用、参考文献の書き方など、レポートや小論文を書く際に必要な形式的要素の理解などの内容を扱う。これらについては、講義のみならず、実際の文章作成課題も適宜取り入れ、文章作成に係る力の定着を図る。
労働経済論a	「働くこと」は、人間が生活する上で欠かせない行為であり、生活に結び付いた行為である。大学生の皆さんにとっても、将来、どのような場所で、どのような仕事をするかというのは、非常に関心の高い事柄だといえよう。労働経済論で、その「働くこと」にまつわる諸現象を経済学的に分析する方法を学び、また現状を具体的なデータを用いて正確に把握することを目指す。極めて個人的な事柄である「働くこと」を、経済学の目線からできる限り客観的に、そして俯瞰的に把握することは、自らが「働くこと」になっても役に立つだろう。労働経済論aでは、労働の需要と供給を中心に、労働経済を分析する各種モデルと、具体的なデータを見る方法を学ぶ。
労働経済論b	「働くこと」は、人間が生活する上で欠かせない行為であり、生活に結び付いた行為である。大学生の皆さんにとっても、将来、どのような場所で、どのような仕事をするかというのは、非常に関心の高い事柄だといえよう。労働経済論で、その「働くこと」にまつわる諸現象を経済学的に分析する方法を学び、また現状を具体的なデータを用いて正確に把握することを目指す。極めて個人的な事柄である「働くこと」を、経済学の目線からできる限り客観的に、そして俯瞰的に把握することは、自らが「働くこと」になっても役に立つだろう。労働経済論bでは、雇用を取り巻く諸制度・システムに着目し、歴史的な展開も踏まえながら、労働経済の現状がいかんして成立しているかについて学ぶ。